

研究課題名	側脳室前半部腫瘍に対する経大脳半球間裂到達法後の高次脳機能変化についての後方視的研究
研究の意義・目的	側脳室前半部に存在する腫瘍に対し左右の脳の間を剥離し脳室に到達する（経大脳半球間裂到達法）には脳梁という左右の大脳半球を連絡する線維を切開する必要がありますが、一般的には2cm程度の切開であれば安全と言われていています。しかしながら約2cmの脳梁切開が安全かどうかについてのまとまった報告はありません。本研究では、経大脳半球間裂到達法を用いた場合の腫瘍摘出率、術前・術後の症状、高次脳機能変化について検討し本当に約2cmの脳梁切開が安全かどうか調べます。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2023年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2015年3月～2018年3月に大阪市立大学医学部附属病院の脳神経外科で、側脳室前半部腫瘍のうち中心性神経細胞腫、上衣下腫、神経膠腫、上衣下巨細胞性星細胞腫のため手術加療をされた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、家族歴、神経学的所見、CT画像、MRI画像、高次脳機能検査の結果】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院脳神経外科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院脳神経外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学 研究責任者 中条 公輔
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学 （担当者氏名）中条 公輔 メールアドレス：neurosurgery@med.osaka-cu.ac.jp